

Book Review Corner

ブックレビューコーナー



「HSK高等模擬問題集」韓国で翻訳出版

133p.26cm.

一年の計は元旦にあり。読者諸兄も様々な今年の抱負をお持ちだと思います。例えば「今年中に検定試験2級合格」という具体的な目標を立てておられる方もきっとおられることでしょう。

21世紀はアジアの時代といわれます。とりわけ13億の人口を擁する中国語の学習者は隣国の韓国でもめざましい勢いで増えています。ところが、良い参考書、問題集が日本ほど多くありません。この度、本学の川口榮一教授と四川外国語学院潘杰助教授が共同で執筆された「HSK高等模擬問題集」が韓国の出版社によって翻訳出版されました。

HSKは外国人など中国語を母語としない人々の中国語の運用能力を測定するために開発されたもので、1990年に中国国家教育委員会（日本の文科省に相当）に認定され、1991年より日本で実施されています。2000年度より、HSK高等試験が日本で唯一、京都外国語大学でのみ実施されています。

820.78-Kaw 陸山 達弥（本学助教授）

上野義和・森山智浩著『イメージ&カテゴリーの英単語』

（株式会社ウィン）2003.9. 228p.21cm.

この図書は、本学図書館長の上野義和教授と本学大学院修了生である森山智浩氏が、英単語の効率的な習得方法を示した辞書体の書物です。二人の著者は、一般的な丸暗記の方法「英単語＝和訳」に代わる覚え方として英単語をイメージとして捉え、カテゴリー化することで、覚えやすく忘れない学習が出来ると言っています。また、子供が母国語の単語を丸暗記で覚えている訳でなく、自然に覚えていることを例にとり、「英単語と記憶の自然さとを結びつけるようなメカニズム（脳の中の言語装置）を発見すれば、英単語の意味がどんどん湧き上がってくる」とも述べています。

目次の「イメージの基本」、「容器と内容物のイメージ」、「単語習得の基本的知識」、「数字と外来語」、「視覚・聴覚と焦点化」、「中心と空間」、「知・情・意」、「言葉のメカニズム」、「移動のイメージ」を見て明らかのように、著者は言語学のほかに心理学など学際分野の学問体系の思考法を駆使して英単語のイメージとカテゴリーを示し、さらにイラストと色分けの手法を豊富に取り入れながら、斬新な手法で単語の捉え方を説明しています。

例えば、「biblio」で始まる語は「本」を意味することから、Bibleは（聖書）、bibliography（参考文献一覧表）、bibliophile（愛書家）などになるとし、また「manu / mani」が「手」を表すことから、manual（手引書）、manufacture（手工業）、manner（手法・態度）、manifest（明白な）へと展開しています。

なお、この図書の編集委員である入学直哉氏と中桐謙一郎氏は何れも本学大学院の修了生です。

834-Uen (M.O.)

